



リフト体験会全景(新治特別支援学校)



リフト体験会(上菅田特別支援学校)



クッション体験(上菅田特別支援学校)



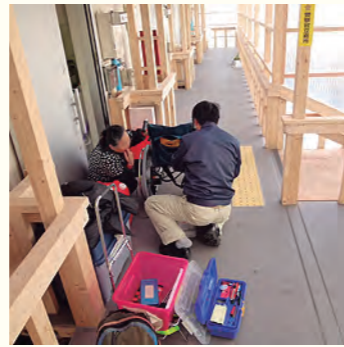
iPad体験(金沢養護学校)



旅行相談(上菅田特別支援学校)

【特別支援学校との連携強化・リフト体験会等の実施】

特別支援学校に通う児童・生徒とその親を対象にリフト体験会を企画。2011年度は5校実施することができた。リフト体験前後で親にアンケートをとった結果、リフトを体験することにより親の意識は大きく変わることがわかった。また、リフト体験会と同時にクッション体験やコミュニケーション機器体験、iPad体験、旅行相談(旅リハ)などのブースを設け、リハセンターと特別支援学校との連携をより深めることができた。



【被災地支援】

岩手県大船渡市の障害者用仮設住宅入居者への支援を実施。電動車いすやインターホンの調整など入居者のニーズに対応し、地域の支援団体と協力して支援することができた。
聖学院大学,他



【盲導犬ハーネス】

従来の盲導犬ハーネスは、利用者の手首や肩への負担が大きかった。このハーネスは上肢に無理がかからない自然な状態で持つことができ、利用者の負担を軽減することができる。
(財)日本盲導犬協会



【高齢者のふるえをおさえる装具】

本態性振戦という病気により手や腕がふるえ、食事や字を書くなど生活に支障をきたす患者が多数存在する。そのふるえをおさえる革新的な装具の臨床評価に協力した。
タマティーエロー(株)



【機器コンテスト受賞・国際学会発表】

障害のある児者の余暇支援(ボウリング支援)機器開発において、中国と日本の福祉機器コンテストで受賞。当課では、毎年韓国国際学会で研究成果を報告し、最新の情報を入手および発信をしている。



【電動義手】

東京大学が開発した高分子材料を使った新型動力源を用いた筋電義手の開発に協力した。これまでの義手と比較して軽量かつ静音性、少電力性に優れていることがポイントである。
豊田合成(株)



【バイオトレーカー】

障害のある人たちの外出時や災害時に活躍する移動トレーカーの内部レイアウト相談を実施。より多くの障害に対応できるよう手すりの位置や福祉用具の提案などをおこなった。
NPO法人やさしくなろうよ



【障害児入浴パンフレット】

障害のある子どもの入浴に関する調査および実験を3年間実施し、その研究成果をパンフレットにまとめた。パンフレットは全国の特別支援学校44箇所に配布した。
国立保健医療科学院,他



【車いす機能付き電動ケアベッド】

車いす機能付き電動ケアベッドの専門職評価(当センター理学療法士および工学技師)を実施。介助場面における表面筋電の計測や血中酸素飽和度、脈拍などを評価した。
パナソニック(株)



【住生活モデル事業】

NPO法人横浜市まちづくりセンターと連携し、高齢者や障害者等が地域で安心して生活できる住環境を整備し、地域の活性化に貢献。国土交通省高齢者等居住安定化推進事業(ケア連携型バリアフリー改修体制整備部門)



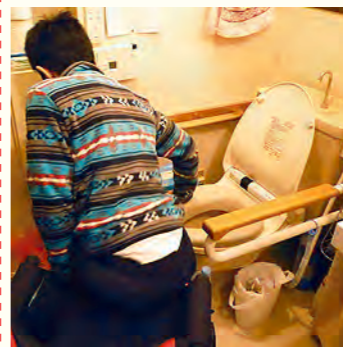
【人工呼吸器搭載カート】

呼吸器に重度の障害がある子どもに対して、本人が容易に操作ができる4輪カートを製作した。これまでは親や保育士がそばにいないと移動できなかったが、このカートによって自分の意思で行動できる範囲が広がった。



【歩行をうながす杖】

パーキンソン病などの疾患特性として、歩行時に足を出すタイミングが難しい場合がある。この杖のグリップ部分には赤色光を出すボタンが付いており、ボタンを押すと床上に赤色の線が引かれ、その線が歩行をうながす。



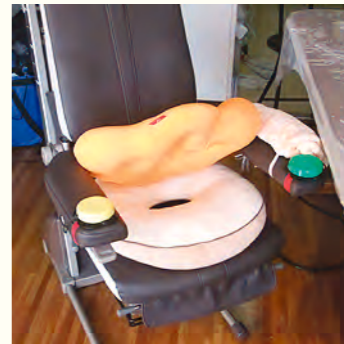
【住宅改造事例・自立に向けたトイレ】

車いす使用者に対し、自立を目指したトイレスペースなどを計画。入院から在宅生活に向けて他の医療機関と連携して改造を実施することができた。
2011年度住まいのバリアフリーリフォームコンクール優秀賞



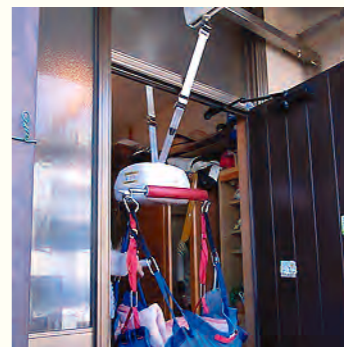
【小児用ストレッチャー型車いす】

股関節や膝関節が動かない子どもに対して、一定の姿勢のままシートを傾けることができるストレッチャー型車いすを製作。ストレッチャーには人工呼吸器や加湿器、バッテリーなどの機材をすべて搭載でき、車への乗車も可。



【昇降座椅子のボタン変更】

筋ジストロフィーなど進行性の疾患は、指先の小さな動きを使う操作ができなくなってくる場合が多い。この昇降座椅子は昇降操作を大きなボタンに変更することで操作をしやすくすることができた。



【電動ベッドのスイッチ操作】

ALSの方が電動ベッドを自立操作できるスイッチの工夫。レバー状のスイッチを追加し、ベッドの背を上げたり下げたりする時に変化する腕の位置に応じてスイッチ部分がスライドし、常に押しやすい位置を保つことができた。



【住宅改造事例・カギ穴のないカギ】

子どもの自立の促進と親の介助負担の軽減のため、収納部分のカギを検討。発達障害のある子どもの中にはカギ穴があるだけでドアの開閉を要求したりすることがあるため、マグネットを使ったカギ穴のないカギを提案した。



【おもちゃの電動化】

おもちゃのバイクを障害のある子どもにとっても使いやすく操作ができるように改造。アクセルは足元のレバーを押す仕様であったが、手元でアクセルの操作ができるようにスイッチを改造した。